

69期生

2年学年だより

豊中市立第五中学校 2021年7月19日(月) No.15



平和学習WEEK

7/12~7/16は平和学習Weekとして、各教科

で「平和」について様々な視点から考える機会

がありました。皆さんは「平和」について、し

っかりと考えることができましたか？各教科で様々な取り組みがありました。平和

学習としてどんな取り組みをしたか、もう一度振り返ってみましょう。

<p>国語科</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 『壁に残された伝言』井上 恭介 著 ● 『『才願ヒ 才知らせ下サイ ~ヒロシマ・あの日の伝言~』を鑑賞して。』 行方を知らない家族を探すために書かれた伝言が、原爆投下直後に臨時的救護所となった広島市の小学校の壁の中から見つかった。長い間塗装によって眠っていた当時の伝言に、家族が時を越えて触れていきます。 当時と現代の想いが交差するところに、映像と教科書を通じて私たちも触れ、戦争と平和について考えていきました。
<p>数学科</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 「数学と戦争」 「情報」は時にはとても重く扱われます。多くの人を救うために、歴史の影で数学者が立ち向かったこととは。 ワークに取り組みながら、実践的に学習を行いました。
<p>理科</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 「ノーベル賞の成り立ち」 ノーベル賞の創設を念願したアルフレッド・ノーベルは、土木工事で苦勞されている人々の姿を見て、研究を重ねてダイナマイトを発明しました。しかしそのダイナマイトは、時代と共に平和のためでなく、戦争のために使われるようになっていきます。科学技術の発展と平和とはどのような関係にあるべきだったのでしょうか。 人々の生活を便利にしてくれる新しいテクノロジーと、人類の向き合い方を考えました。

<p>社会科</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 「調べ学習『第二次世界大戦と沖縄』」 第二次世界大戦の中、沖縄はたくさんの深い傷を負いました。戦争が変えた沖縄の人々の生活や家族について、平和新聞の制作を通じて考えていきます。社会科では、夏休みの課題も兼ねて学習を進めています。
<p>美術科</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 「阿部合成『見送る人々』から考える平和」 1937年中戦が勃発。7月全国に召集令状が配布された。ホームで出征する家族を見送る人々。阿部合成は、この悲しみや熱狂が渦巻く風景を、その空気ごと写しとりました。感情が渦巻く情景を、現代の私たちの視点から読み取って、戦争とは何か、平和とは何か、一枚の絵から考えていきました。
<p>英語科</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 「黒人差別問題 (Black Lives Matter)」 2020/5/25に起きたジョージ・フロイド事件を紹介し、今なお残るアメリカの黒人差別問題について考えました。黒人であるというだけで周りの目を気にして生活しなければいけないという生活の実態を知ったが、白人がデモや追悼式典に当たり前のように参加するなど変化も起きています。あらゆる差別をなくしたい、公平に人と接することのできる人間になってほしいと想いを伝えました。

それぞれの教科で、皆さん自身で平和を考えていくことができましたか？このように世の中にある課題の多くは、教科を超えて考えていかななくてはなりません。なぜなら、これらの問題はいま学んでいることを組み合わせなければ解決には向かわないほど、多くの人や物が関わっているからです。

世の中には様々な立場の人がいます。立場が違う人々と「対話」をして協力していくには、今学んでいるそれぞれをつなげて考えていく力が必ず必要になります。

誰かと協力しなければいけない時に、「偉い人が言っているから」や「すごい人たちが言ったから」といった無批判・無関心な姿勢で受け入れたり、「誰かがやってくれる」といったような姿勢でまかせっきりにしたりしてはいけません。自分の頭と心で考えないといけません。

「平和」もどこかの誰かが、考えていけばよいものではありません。私たち一人ひとりの想いや、発することば言葉の一つひとつが、未来につながっていきます。

夏休みはきっと暑い日が続くでしょうが、平和について少し考えてみましょう。皆さんが持つ「平和を尊重する気持ち」を、これからも大事にしていてもらえることが先生たちの願いです。

